

銀座水族館 (七つの海の魚および水産切手)

—(8)—

東京支店 営業第一課 神原 勇

サメ目 シュモクザメ科

学名 シロシュモクザメ *Sphyrna zygaena*

アカシュモクザメ *Sphyrna lewini*

ヒラシュモクザメ *Sphyrna mokarran*

英名 Hummerhead shark

和名 シュモクザメ・カセブカ又はカセ

・カネタタキ

全世界の温帯から熱帯にかけての浅海や沿岸水域に分布するが、日本近海では「シロシュモクザメ」が多い。頭部は左右に突き出していて、体とはT字型を成していて鐘をたたく撞木(シュモク)に似せてシュモクザメと呼ばれる。この撞木は一名カセともいわれ、頂部がT字型になった杖は撞木杖(シュモクツエ・カセツエ)とも呼ばれるところからカセブカの語源ともなっている。頭部の先端には眼がついていて、鮫類はもとより魚類を通していても一種特異なる体型で、ユーモラスでもあり滑稽さを誘うものではあるが、頗るその性質は狂暴であり、浅海にうろつき人を襲い危害を加える事もある。脳の大部分が嗅覚中枢で占められているので、鼻は良く発達していて血のにおいがすれば数百米先よりかぎつけて寄せ集るといわれる。獲物を見つけると猛烈なるスピードで襲いかかり、口が腹側にあって上顎が下顎よりも極端に出っばつているので、ガブリとかみつくや体を反転させ肉塊を食いちぎり取るが、その跡はカミソリで切りとったような鋭い切口が見られる。三

角形のうすく鋭くとがっているものでその数も多く、口の入口から奥の方にかけて五列位並んでいるが、実際に使用するのは前の先端部分だけで残りのものは予備的なもので、前の歯が欠けたり抜けたりすると奥の歯が前方に移動する。

日本近海産シュモクザメの主なる特徴

ヒラシュモクザメ アカシュモクザメ シロシュモクザメ

- |            |      |      |
|------------|------|------|
| 1) 頭部前縁が平ら | やや凹凸 | やや凹凸 |
| 2) 頭部中央に切込 | 同じ切込 | 切込なし |
| 3) 沿海性     | 冷い海域 | 沿海性  |
| 浅海性        | 外洋性  | 浅海性  |
| 4) 肉の色やや白味 | やや赤味 | 白味   |
| 5) 体型 大    | 中    | 小    |

体色は灰色から灰黒色で、眼に瞬膜があり、尾鰭の上葉は下葉よりも長く上葉の先端には切り込みがある事などから、メジロザメに類似した特徴をもっている。鼻孔は頭部前縁にあり可成り離れている。口は腹側にあって半月形をしていて、上顎は下顎より極端に出っばつている。鰓列は胸鰭基部より前方に五対あり。第一背鰭と胸鰭は大きく、第一背鰭は腹鰭より胸鰭に近いところにある。第二背鰭とシリ鰭は小さく、尾鰭の付け根のところにはくぼみがある。第一背鰭、胸鰭、尾鰭は中華料理の「フカのヒレのスープ」の優良なる原料として取引される。肉は鮫類の中では美味の方で高級蒲鉾の原料となる。

サメ目 シュモクザメ科 シュモクザメ

学名: *Sphyrna zygaena*

英名: Hummer head shark

全世界、温帯から熱帯 = カゲテノ浅海や沿岸域 = カゲテ生息スルガ、季節的ナ移動ヲシテ冬季ハ深所、夏季浅所ニ来ル。頭部ヲ左右ニツキダシ、体トハT字型ヲイジ、鐘ヲタタク撞木(シュモク)ニ見タテテ「シュモクザメ」ト呼稱サレルヤクハ「ブアルガ」、関西、九州デハ「カセ」ヲハメテ「カセ」又「カセブカ」和歌山県和歌浦デハ「ソノノズハリ」「カネタタキ」ト呼ブ。

体型ハユーモラスナルモ、ソノ性質ハ種々鱗鱗デ浅海ニシロフキ、人間ニ危害ヲ加ヘル。日本近海ノモノハ体長約3mニ達スル。鱈ハ優良ナル中華料理「フカヒレ」ノ「フカ」トナル。



スペイン領 イフニ 1954



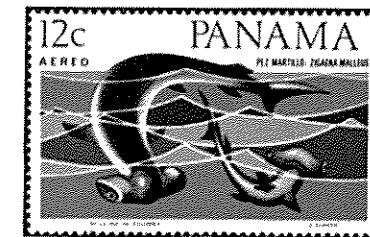
英領印度洋地域 1968



スペイン領 イフニ 1954



仏領ソマリ海岸 1959



パナマ



仏領コモロ諸島 1965